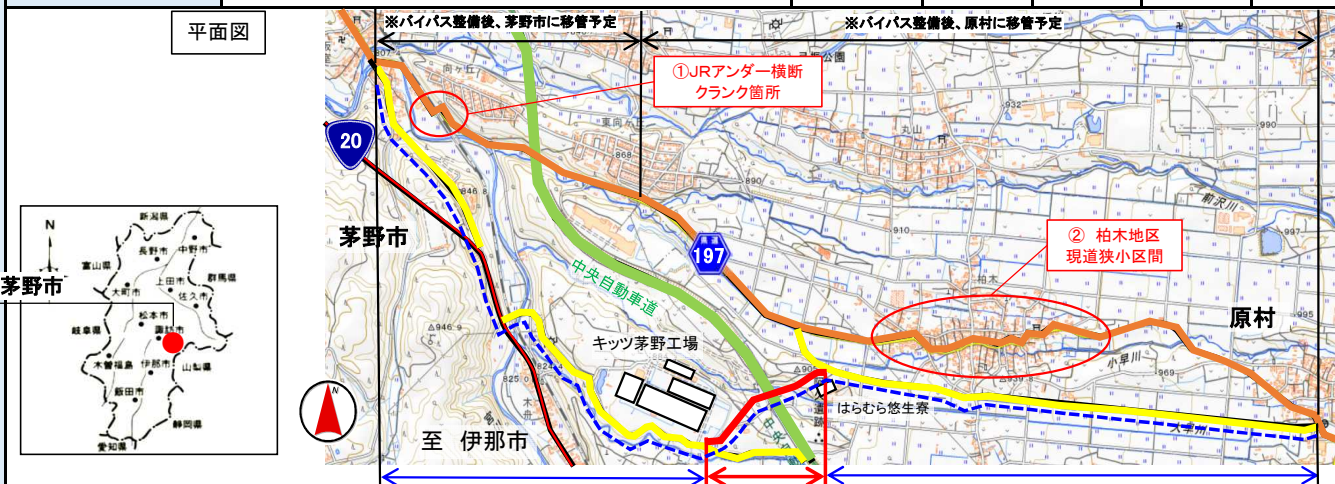
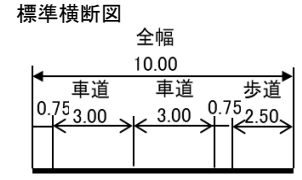
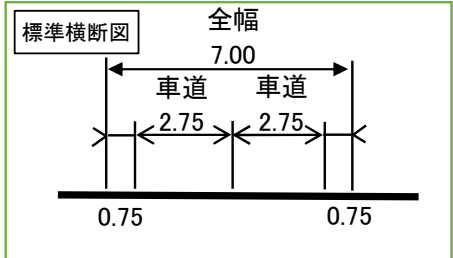


事業名		道路改築		路河川名等	(一) 弘沢茅野線					
事業毎の通番		1	市町村名	原村～茅野市	箇所名(ふりがな)	阿久(あきゅう)～坂室(さかむろ)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進 3-1 ④ 本州中央部広域交流圏の形成			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 長野県強靱化計画			関連する事業プロジェクト	—				
	現状と課題	(一) 弘沢茅野線は、原村の(主)茅野北杜葦崎線との交点から国道20号茅野市上原交差点に至り、第2次緊急輸送道路に指定されている路線である。本路線の柏木地区は住宅街であり幅員狭小かつ線形不良であるとともに、JR中央東線と交差する箇所はクランク形状で通行のボトルネックになっていることから円滑・安全な交通に支障をきたしている状況にある。								
	事業目的	道路整備により課題を解消し県道を振替えることにより、ハケ岳山麓と諏訪湖周辺の観光地との周遊観光に寄与することや災害時における緊急車両等の安全で円滑な走行空間の確保や通勤時における交通渋滞の緩和を図ることを目的とする。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2033年度(令和15年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路築造工 全体延長 L=0.8km 幅員 W=6.0(10.0)m			1,300,000	650,000	—	585,000	65,000	
	平面図  ① JR中央本線  至 国道20号 茅野市街地 ② 柏木地区 現道狭小区間  至 原村 道路改築工 L=0.8km W=6.0(10.0)m 凡 例 - 道路改築区間 - 県道197号 - 市・村道 - 県道振替区間 標準横断面図 									
事業効果	主な受益対象	自動車: 4,100台/日(計画交通量)								
	期待される効果	【直接効果】走行時間の短縮(3分) 【間接効果】産業・観光の振興、災害に強い道路ネットワークの構築				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.3			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	第2次緊急輸送道路に指定されている道路であるとともに、原村中心部から茅野市、諏訪市方面への主要な道路として、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	茅野市、原村より毎年9月諏訪建設事務所に要望あり								
	事業説明等の経緯	R4.8 NEXCO 事業概要説明 R7.1 事業で影響を受ける事業者による事業説明 R7.2 茅野市木舟区役員会 事業説明会実施 R7.3 原村柏木区 地元説明会実施								
評価結果	建設部公共事業評価委員会の意見	現道の課題が解消され、第2次緊急輸送道路としての機能の確保、観光や物流への貢献、更に、安全で円滑な交通の確保が図られることから「事業着手」が妥当と判断する。						妥当性評価 ※	優先度評価 ※	
	長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。						○	3.8	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	県の評価案が妥当	評価の決定	事業着手				

(様式1-2) 新規評価シート

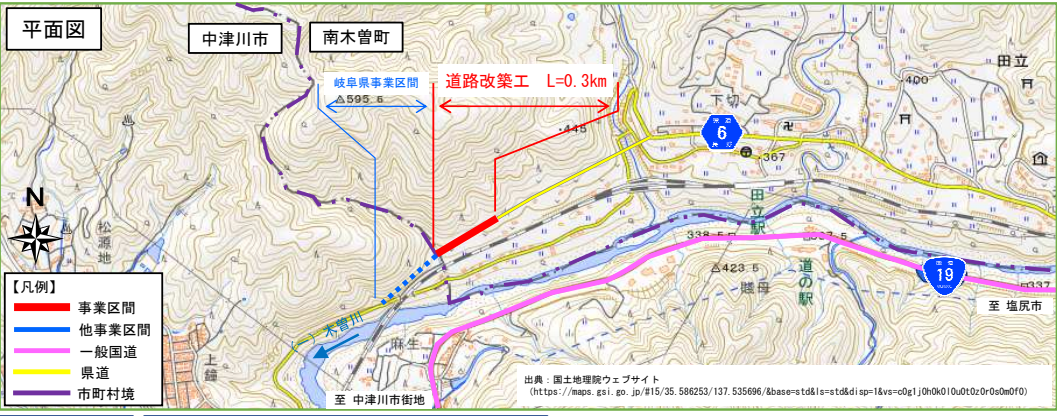
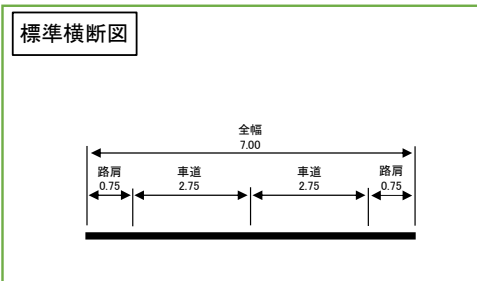
建設部 道路建設課

事業名		道路改築		路河川名等	(国)418号					
事業毎の通番		2	市町村名	阿南町～天龍村	箇所名(ふりがな)	新野～神原(にいの～かみはら)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 長野県広域道路交通計画			関連する事業プロジェクト	—				
	現状と課題	国道418号は福井県から飯田市南信濃を結ぶ路線で、阿南町の国道151号から天龍村間は、両町村を結ぶ唯一の道路であり、地域の生活を支える生活道路であるとともに、沿線に温泉施設(おきよめの湯)があるなど多くの観光客が利用する観光道路でもある。両町村を結ぶ区間は一部改良済み区間もあるが、幅員が2.0～3.5mの狭小で見通しの悪いネック区間が多数あり、車両同士のすれ違いが困難な状況となっている。								
	事業目的	道路整備により課題を解消し、生活車両や観光車両等の安全で円滑な走行空間の確保を図ることを目的とする。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.7km 幅員5.5(7.0)m				920,000	506,000	—	372,600	41,400
	平面図  道路改築工 L=0.7km W=5.5(7.0)m 標準横断面図  全幅 7.00 車道 2.75 車道 2.75 0.75 0.75									
	現在の道路状況									
事業効果	主な受益対象	自動車:403台/日(計画交通量)								
	期待される主な効果	【直接効果】走行時間の短縮(1.5分) 【間接効果】災害時における道路の迂回機能の強化、地域間交流				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.1			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の重要な生活道路及び観光道路であり、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年、国道418号整備促進期成同盟会から、早期整備を求める要望が建設部長に行われている。								
	事業説明等の経緯	地域からの要望を元に整備内容、道路事業の整備について合意形成が図られている。								
評価結果	所管課の意見	地域住民や観光客にとって安全で円滑な走行空間の確保され、地域産業への貢献や温泉施設など観光拠点へのアクセス性の向上が図られることから「事業着手」が妥当と判断する。					妥当性評価 ※	優先度評価 ※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	3.6		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

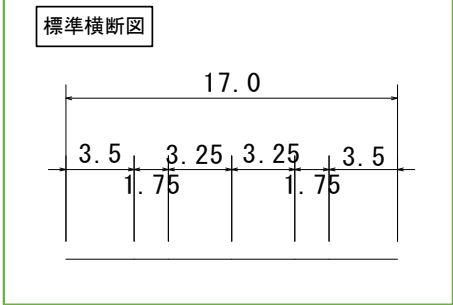
※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

(様式1-2) 新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築		路河川名等	(主)中津川田立線					
事業毎の通番		3	市町村名	南木曽町	箇所名(ふりがな)	田立(県境)(ただち(けんきょう))				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進 3-1 ④ 本州中央部広域交流圏の形成			SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 長野県強靱化計画 長野県リニア活用基本構想			関連する事業プロジェクト	第11次南木曽町総合計画				
	現状と課題	主要地方道中津川田立線は、岐阜県中津川市と南木曽町を結ぶ幹線道路で国道19号の災害時における唯一の迂回路であるとともに、リニア中央新幹線岐阜県駅(仮称)へのアクセス道路に位置付けられている。事業区間は幅員狭小かつ線形不良であり、交通の安全性、円滑性に支障をきたしている。								
	事業目的	バイパス整備により課題を解消し、国道19号の災害時における迂回機能の強化や安全で円滑な交通の確保を図る。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.3km 幅員5.5(7.0)m				500,000	250,000	-	225,000	25,000
	 田立(県境)  平面図 中津川市 南木曽町 岐阜県事業区間 Δ595.6 道路改築工 L=0.3km 【凡例】 - 事業区間 - 他事業区間 - 一般国道 - 県道 - 市町村境 出典：国土地理院ウェブサイト (https://maps.gsi.go.jp/#15/35.586253/137.535696/kbase=std&ls=std&dl=sp=1&vs=0&gl=0&0t0z0r0a0m0f0)									
	 国道19号の通行止め状況(交通事故)  すれ違いが困難  標準横断面図 全幅 7.00 路肩 0.75 車道 2.75 車道 2.75 路肩 0.75									
事業効果	主な受益対象	自動車:1,300台/日(計画交通量)								
	期待される効果	【直接効果】走行時間の短縮(1分) 【間接効果】災害時における道路の迂回機能の強化、リニア駅へのアクセス性向上				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	3.8			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	国道19号の災害時における唯一の迂回路であるとともに、リニア中央新幹線岐阜県駅(仮称)へのアクセス道路であるため、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年、主要地方道中津川田立線改良促進期成同盟会等から線形不良、幅員狭小となっている県境区間の課題解消に向けた早期着手を求める要望がある。								
	事業説明等の経緯	令和6年度に地元関係者に対しルート説明を実施し、事業実施及びルートについて合意形成済。								
評価結果	所管課の意見	現道の課題が解消され、国道19号の迂回路機能の強化やリニア中央新幹線岐阜県駅(仮称)へのアクセス性向上、更に、安全で円滑な交通の確保が図られることから「事業着手」が妥当と判断する。					妥当性評価 ※	優先度評価 ※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	4.2		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		道路改築		路河川名等		(国)406号				
事業毎の通番		4	市町村名	須坂市	箇所名(ふりがな)	塩川町東(しおがわまちひがし)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2① 災害に強い県づくりの推進 1-6① 県民生活の安全確保			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 須坂市都市計画マスタープラン			関連する事業プロジェクト	—				
	現状と課題	国道406号は長野市と須坂市街地を結び、第1次緊急輸送道路に指定されている主要幹線道路である。また、塩川町区間は、須坂市日野小学校の通学路の指定路線である他、右折レーンがなく朝晩の通勤時を中心に車両の混雑が見られ、「長野県事故ゼロプラン」に位置付けられている要対策箇所にも指定されている。このため、これまで渋滞対策のため交差点改良を実施してきており、残る区間の整備について沿道利用者の関心が非常に高い状況にある。 また、当該箇所は、交通量が多く車道及び歩道とも幅員が狭小であるため、須坂市が策定した須坂市通学路交通安全・登下校防犯プログラム点検箇所(平成30年10月改訂)となっている。								
	事業目的	歩道拡幅を実施し児童及び歩行者の安全確保を図るとともに、車道幅員の改善を行う。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.3km 幅員6.5(17.0)m				950,000	522,500	—	384,750	42,750
										
										
事業実施区間との区境		日野小学校通学路であるが幅員狭小								
事業効果	主な受益対象	計画交通量(自動車)14,032台/日								
	期待される主な効果	【直接効果】走行時間の短縮(1分) 【間接効果】地域間交流の促進、物流の円滑化				費用便益比(B/C)		—		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	須坂市都市計画マスタープランの都市間連携軸として主要な道路であり、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	一般国道406号(白馬・小川・長野・須坂・上田間)整備促進期成同盟会からの要望あり。(R6.7) 須坂市から事業の中抜け区間に対する要望がある。(R6.9) 小学校通学路であり歩道拡幅の要望がある。(H24~R6)								
	事業説明等の経緯	令和7年2月に計画説明会を実施し、事業を進めることについて合意を得られている。								
評価結果	所管課の意見	既改良箇所からの歩道が延伸となり小学校の通学児童の安全が確保されるほか、車両の安全性、円滑性の向上が図られることから「事業着手」が妥当と判断する。						妥当性評価 ※	優先度評価 ※	
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	4.1	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			